



2007年8月3日  
エム・シー・メディカル株式会社

## News Release

<http://www.mcmed.co.jp>

### 整形外科分野の内視鏡下手術機器 3点を発売

エム・シー・メディカル株式会社（本社所在地：東京都新宿区、社長：平野政良）は、内視鏡外科手術システム分野の世界的リーディングカンパニーで、高い機能と品質を誇るカールストルツ（KARL STORZ GmbH & Co. KG、本社：ドイツ・トゥットリンゲン）の整形外科分野向け手術機器「硬性鏡スコープ」「ガイド・カニューラ」「電動カッター」の3点の発売を開始しました。

■今回発売の「ホプキンスⅡ 4mm 径・45° 斜視スコープ」（製品名：テレスコープⅡ、医療機器届出番号：21300BZY00369）は、主に膝関節や肩関節の診断や鏡視下手術に使用する硬性鏡です。

同社の整形外科分野でのスコープは既に視野角「0度、30度、70度」のラインナップを揃えておりますが今回「4mm 径のシャフトに45度の斜視鏡」を追加する事により、術者が見たい視野の確保、たとえばACL再建術の際、大腿骨の骨孔付近などが鏡視できます。このことで本45度のテレスコープ1本で対応が可能なケースが見込まれ、術中にスコープを変えずに診断や処理が出来るなど手術時間の短縮も期待されます。

■「ハーフパイプ」（製品名：ハーフパイプ、医療機器届出番号：13B1X000880KS686）は主に肩や肘の関節鏡視下手術時に使用する処置具やスーチャーを関節腔に挿入する際、本製品を添えて挿入します。

ハーフパイプは同手術時の処置や縫合をする際、各種手術機器やスコープを関節内に出し入れを行うための機器で、内視鏡手術には欠かせません。通常内視鏡下手術は皮膚から関節内にカニューラを挿入させ、その中を器具・スコープ類を入れ処置をしますが、本製品は挿入機器の大きさにとらわれることなく出し入れができるのが特徴です。ハンドルが付いており、術者がしっかりと持つことができ、機器・スコープ類の出し入れ誤操作予防につながります。ロングとショートの2種類があります。

■「パワーシェーバーSL」（製品名：パワーシェーバーSL、医療機器届出番号：13B1X000880KS581）は、内視鏡下で膝・肩・肘・足首などの関節内の軟部組織、滑膜、



骨切除や靭帯再建術に使用する電動のカッターです。

ハンドピース・ブレード・コントロールユニット・フットスイッチで構成されており、関節腔の広さや適応によってハンドピースとブレードの径と形状が選択できます。本機使用は手術時間の短縮につながり、ブレード部分が再使用可能となっているのが特徴で、ブレードは別売りとなっています。

◆ 本件問合せ先：エム・シー・メディカル株式会社

広報企画グループ 鈴木広明

☎ (03) 5330-7898 fax (03) 5330-7869 <mailto:suzuki@mcmed.co.jp>